

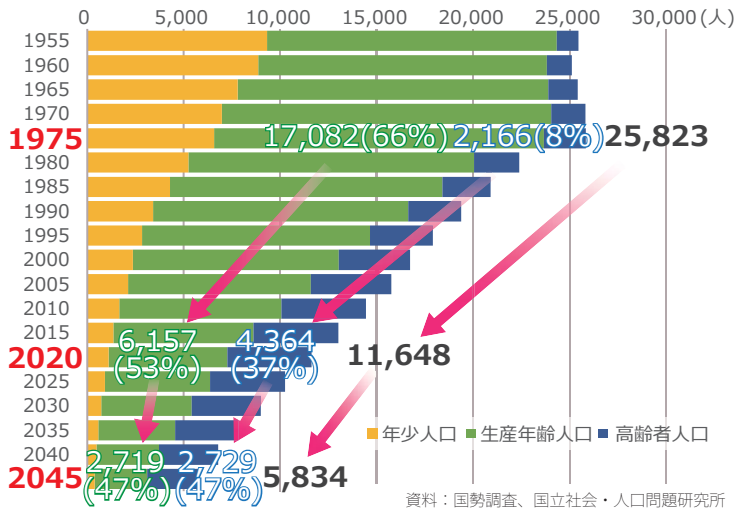
人口減少時代の 岩内町のまちづくり

岩内町の都市構造は、大火後に基礎がつくられ現在に至っていますが、人口減少が進み、年齢構成が変化することで、まちづくりの課題や社会の新たな動きへの対応が求められています。

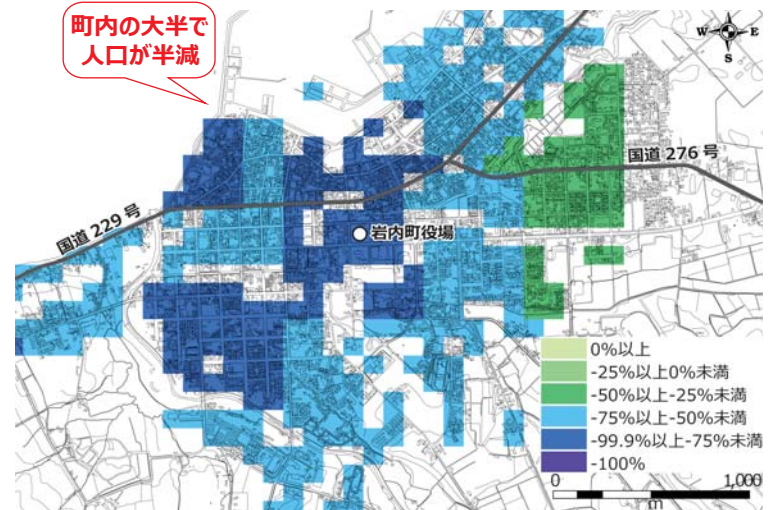
岩内町で想定される人口の動き

- ・人口は、1975年の25,823人をピークに減少し、2045年には5,834人で1/4以下と推計されています。
- ・働く世代(14~64歳)が大幅に減少、高齢化率は上昇し、2045年には働く世代と同じ47%と推計されています。
- ・50年間(1995~2045年)では町内の大半で人口が半減し、大量の空き家・空き地が発生する可能性があります。

3階級別人口の推移



1995年→2045年の人口増減率



このまま手を打たずに、人口や働く世代の減少が更に進むと…負のスパイラルに陥る可能性があります

市街地の低密度化
人口減少 他都市への流出
少子高齢化 人口減少
店舗等の減少
生活利便性の低下

津波災害警戒区域
現在の市街地範囲
約45年前の市街地範囲【人口ピーク時】

店舗等の減少
財政ひっ迫による公共施設の老朽化
空き家・空き地の増加
公共交通の減少
道路・下水道などインフラ維持が困難

災害区域や郊外部の無秩序な開発懸念

将来の都市経営イメージ
金額高
税収入の減少
インフラ・公共施設コストの上昇
現在 将来

岩内らしい魅力を活かしながら、人口減少が進んでも、住み良いまちづくりを考えていく必要があります！

まちづくりの課題イメージ

いつまでも
暮らしやすい

これからのまちづくりに向けた取り組み

これらの課題に対応し、永く暮らしやすい岩内町とするために、
岩内町では2つの計画の策定を進め、これからのまちづくりの方針と施策検討を行い、
持続可能な岩内町のまちづくりを目指します！

都市計画マスタープラン

これからのまちづくりの基本方針を考えます

都市計画マスタープランは、岩内町の最上位計画である「岩内町総合振興計画」を踏まえた、まちづくりに関する基本的な方針となる計画です。全体方針のほか、以下の具体的な方針を定めません。

- ・土地利用（住宅、商業、工業、農地など）
- ・道路などの交通施設
- ・公園、緑地など
- ・その他都市施設（下水道など）
- ・自然環境、都市景観など
- ・地域別のまちづくり方針（地域別構想）

立地適正化計画

人口減少が進んでも、暮らしやすいまちづくりの方法を考えます

立地適正化計画は、公共交通と連携しながら、まちに必要な施設を集めるエリアや住宅を誘導するエリアなどを定めます。

具体的には以下を設定します。

- ・居住（住宅）を誘導するエリア（人口減少や災害を踏まえて設定）
- ・防災指針（居住を誘導するエリアが災害区域の場合における防災の取組）
- ・商業・医療・福祉などの機能を誘導するエリア

など

まちづくり検討のイメージ

- ・土地利用の方針
- ・道路計画の方針
- ・公園や緑地の方針
- ・防災の方針
- ・地域別のまちづくり方針
- ・住宅等を誘導する区域の設定 など



都市計画マスタープラン・立地適正化計画は、令和7年3月の策定を目指すとともに、町民の皆さまを対象としたアンケート調査や計画素案に対する意見募集（パブリックコメント）を行う予定です。皆さまからのまちづくりに対する貴重なご意見をお待ちしております。